令和７年度　各係における教育活動重点目標

◆教務係

〔１〕今年度の重点目標

①新しい学力を踏まえ、生徒の学力向上を目指す。

②校務が円滑に行えるように計画・立案する。

③ICT を活用した生徒の出席状況の把握と先行指導

④生徒の豊かな人格形成を助ける。

⑤入試広報係協力しての生徒募集活動

〔２〕評価表　※評価【〔達成度〕 A:十分　 B:おおむねよい　C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	実施事項と今後の課題
①	教科シラバスによる計画的授業と定期考査の改善。新課程シラバスの作成と、観点別学習評価に合わせた定期考査の研究。	計画的な授業が展開でき、学習内容の定着が確認できたか。 新課程に合わせた研究が進められたか。	A	多様な入試形態に即した観点別学習評価の研究及び改変。定期考査の円滑な実施のための準備形態の確立。規則策定。
①②	ICT の導入を踏まえた授業アンケートを実施し、その結果を利用した授業改善を促す。	授業評価を実施し、タブレットを活用した授業改善の促すことに努められたか。	B	1 学期末にタブレットによる授業評価アンケートを例年通り実施
①	実力テストの結果の有効利用と、効果的な学習活動につながるよう研究する。新課程については、小テストや振り返りシート等とともに評価に組み込めるよう研究する。	実力テストの活用について検討できたか。適切な準備・後処理が出来たか。 新課程における評価の扱いについて研究を進められたか。	B	4 月、8 月に実力テストを実施。分析、利用については、今後の課題。新課程の評価方法については、各教科の取り組みを把握及び課題の聞き取り実施。
②	授業時数の確保	年間計画にのっとり授業時間が確保できたか。感染症の拡大等、不測の事態に対応できたか。	A	確保できている。不測の事態現在のところない。
①②	試験時間割・監督・事後指導の日程調整	計画的な試験対策勉強が出来る環境を作れたか。また、丁寧な事後指導を行えたか。	A	新教育課程に合わせた、時間割、監督配置の研究と実施。例年通りの考査後指導実施。
①②③	適切な年間計画の作成	年間の様々な行事を適切に配置し、生徒の豊かな人格形成の手助けとなったか。	A	本年度年間計画は、円滑に実施できている。次年度年間計画の作成は今後行う。

①②	学校自己評価	学校自己評価をとりまとめ、外部に公表できたか。	B	できている。3年生保護者へのアンケートを3月から9～10月に前倒しして実施する予定。
②	校内・校外研修、相互授業見学等、新しい研修制度の実施	校内実践例を知ることにより、探究学習について理解が深められたか。	B	教員相互授業見学を6～7月に実施。２学期も実施予定。
③④	生徒の出席状況の把握と先行指導	毎日の出席状況や、個人カルテを活用した1/6、1/5オーバーをした生徒の把握をし、適切な対応を行えたか。	A	ブレンドの円滑な利用により適切に行うことができている。しかし、転学を減少させることが継続課題となっている。
②④	BLENDの有効活用	保護者との円滑な連絡や、生徒の活動計画、記録として活用、運用ができたか。 欠課数に対する進級に必要な出席数に関する表示について内規と同じにする。	A	保護者への連絡システム運用開始。欠席数の問題については、数度にわかる交渉を行ったが、進展がないのが実情。今後も新教育課程の性質上、解決が難しい状況。
②	各種奨学金を生徒に紹介し、奨学金の受給を広げる	一覧表の配布や説明会を実施し、奨学金を生徒に紹介できたか。	B	例年通り実施。
②	働き方改革への取り組み	未来を展望し、新たに取り組むべきことを導入する余地を生み出すという前提に立って、業務の見直しを図れたか。	B	成績処理に関して、時間的に無理のない日程を研究。課題山積だが、多少の改善が見られた。継続研究。
⑤	入試広報係と協力して入試業務を行う。	入試説明会や学校見学会等を円滑に行えたか。	A	連携し現在、実施中。

①②④	探究学習の推進	探究学習について教員が共通の認識を持ち指導にあたれたか。 学年による格差のない探究学習を進めることができたか。 生徒が、探究学習の意義と入試における必要性を認識し学習を進めることができたか。	B	探求学習推進委員会を発足させて、学年間の情報交換ができる環境を整備した。探求学習の実施については２学期以降の実践を見守りたい。
②④	英語検定の生徒への周知と取得者増加を支援	英語検定について教員が共通の認識を持ちそれぞれの立場（学級担任・学年・教科・係）で指導にあたれたか。 学年による格差のない英語検定取得に向けた指導を進めることができたか。 生徒が、英語検定取得の意義と入試における必要性を認識し学習を進めることができたか。	A	教務主任を主に英検連絡会を設置、各学年、英語科が連携して英検取得にむけて取り組むための環境を整備。６月に英語科で英検取得実態調査の実施。調査をもとに各学年で保護者懇談会で英検取得を話題にし生徒に目標設定をさせる。
①	進級に必要な出席数に関する内規の改定	現在の生徒たちを取り巻く環境に応じた内規の変更ができたか。 ※具体的には緩和。 進級に必要な出席日数を補うためのスクーリング、補習、課題等に関して人権相談室と連携して内規変更の研究を進める。	B	県教委など外部に聞き取り調査を実施したが、変更は難しい状況であると言わざるを得ない。しかしながら視点を変えて研究を進めたい。
④	教育環境の整美	教室内の整理整頓、適切な電子黒板の管理。 電気・エアコンの浪費抑制を喚起できたか。	A	教務主任による毎日の校内見回りを実施。今後も継続。

◆進路指導係

〔1〕今年度の重点目標

①講演会やキャリアガイダンス等を通して進路に対して目的意識を育むとともに、主体的な進路実現を支援する

②多岐にわたる進路における情報を適宜提供することにより、早い段階での進路意識の向上を図り、担任団の進路指導の援助を行うとともに、生徒の面接指導やプレゼンテーション指導等を支援する。

③基礎学力の向上に意欲を持てるよう、各種補習や模擬試験への取り組みを充実させ、進路実現に向けた学力の向上を図り、希望進路の実現を支援する。

〔2〕評価表　※評価【〔達成度〕 A:十分　B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	実施事項と今後の課題
①	三年間を見据えたキャリア教育を計画し、主体的な進路選択に向けた支援を行う。	各学年の段階に応じたガイダンスや講演会を、計画的に実施できたか。	A	ビックハットで行われた進路ガイダンスに 2 年生全員参加。大学出前授業実施。大学キャンパス見学・校内でのガイダンス実施。
①	就職希望者を主とし職業体験の場を提供し、生徒の職業理解を深めさせる。	事業所見学の希望者に対し、事前に趣旨や意義を指導できたか。	A	ジュニアインターンシップや看護の職場体験を実施。福祉の職場体験を実施予定。現 3 年生一般企業内定 3 名選考中 1 名 公務員 1 名内定
②	生徒の進路意識状況を定期的に把握し、適切な進路情報を提供しアドバイスする。	進路希望調査を行い、生徒の進路意識に見合った進路指導を行なえたか。	A	スタディーサポートを利用して希望進路状況や意識の状況を把握し、まとめている。
③	生徒の学習の場を確保し、希望進路実現に向けた学力の向上を図る。	各種補習の実施、キャリアセンターやスタディホールの有効活用ができたか。	A	夏期進学講習予定通り実施。土曜進学講習実施中。特進学習会では学年ごとに進路講演会や体験学習会を実施。 スタディホールの在席確認新システム試行実施中。

②③	生徒の成績の把握･分析を行い、状況に見合う進路指導を行う。	High School Online を活用し生徒の指導を行えたか。	A	模試ごとに進路検討会を行い、過去のデータや他校のデータと比較し把握分析に務めている。
③	研修会への参加及び校内での情報共有を行ない、職員間での共通理解を持つ。	教員の使用環境を整え、入試に問題なく活用する状況をつくることができたか。	B	各研修会への参加を Teams を通じて呼びかけている。

◆生徒指導係

〔1〕今年度の重点目標

①制服を正しく美しく着させる

②SNS とのかかわり方についての指導を充実させる

③自転車の安全運転を徹底させる

④電車内のマナー向上と安全な登下校

⑤いじめの予防、早期発見、早期対応

〔2〕評価表　※評価【〔達成度〕 A:十分　B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	実施事項と今後の課題
①	シャツの第一ボタンまで締めさせる指導 女子生徒のスカート丈	シャツの第一ボタンを締めさせる指導を徹底できたか 正常なスカート丈で履けているか	C	２学期以降、制服の着崩しや化粧などの規則違反が目立ち始めている。 この状況に対し「身だしなみ改善月間」という形で学校をあげて指導の強化を図っていく。
②	校内スマートフォン使用ルールの徹底 生徒指導だよりや講話､校内電子掲示板を　利用した啓蒙活動	他係と連携 利用ルールが守られていたか SNS 関連の問題行動やトラブルが減ったか	B	校内スマートフォン使用ルールは定着している。1 学年で年度当初 SNS に関する講演会を実施。しかし SNS 絡みの問題行動が発生し､被害生徒･保護者への対応が困難となる事例もあった。 今後も生徒指導便りや、担任から SNS トラブル事例を紹介してもらうなど、さらに力を入れて啓蒙活動や指導に取り組んでいきたい。
③	生徒指導だよりや講話を利用した啓蒙活動 通学路自転車指導 法改正に伴うヘルメット着用の奨励	運転マナーが向上したか 事故の件数 ヘルメット着用率は向上したか	A	例年通り、年度当初の立ち番により危険個所の指導を実施。生徒の登下校の様子や事故件数等を見ても、安全運転が出来ていると評価できる。ヘルメット着用については、生徒指導便りや集会の場面において、都度奨励に努めている。
④	生徒指導だよりによる啓蒙活動 列車乗車指導 駅見回り 通学路指導	乗車マナーが向上したか 登下校時の歩きスマホの状況	B	駅利用や乗車に関するクレーム･トラブルが数件あり。都度、全生徒へ注意喚起を実施している。二学期に乗車指導を実施する予定。

⑤	生徒指導だよりや 講話による啓蒙活動 いじめアンケートの 活用・他分掌との連携	いじめを未然に防げたか 適切な対応ができたか	A	クラス内での細かな人間関係のトラブルはあるが、小さなうちに担任・副任・学年主任や生徒指導が関わりながら解決に向けて指導が出来ている。第一回いじめアンケートも実施し、問題の早期発見早期対策につなげたい。

◆生徒会係

〔1〕今年度の重点目標

①生徒会総合本部役員のリーダーシップの下、伝統を大切にしながらも、新しい西高文化の創造に対して前向きに取り組む姿勢を支援していく。

②役員会・クラブ・クラス・委員会など様々な生徒集団の中で、課題の発見から課題解決に至る道筋を見通し実行する力を育成することを通じて自立と自治の力をつけさせ、民主的な人格形成を目指す。

③他校、地域、保護者などに対して開かれた活動を生み出し、社会性を身につけさせる。社会に目を向けた活動を実践する中で、高校生として社会に対してどのような発信ができるかを考えながら活動を広げていくことを目指す。

〔2〕評価表　※評価【〔達成度〕 A:十分　B:おおむねよい　C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	実施事項と今後の課題
①	本部役員の企画力・行動力を育み、リーダー集団として成長させる。	予餞会・西高祭など各種行事を主催・運営することにより、自らの組織力や行動力を高められたか。	A	西高祭に関しては、テーマの実現をいかに図るかを大切にし、組織的な活動ができた。
①	太鼓の伝統を引き継ぐ。	太鼓の伝統的な指導を受け継ぎ、太鼓を通して団結力や精神面を鍛えられたか。	A	西高太鼓を継承し、発表につなげることができた。
②	上田西高校の学習文化の深化を図る。	第9回、10 回の上田西高校学びプロジェクトを活用し、**探究学習との連携を深め、学習文化の深化を図ることができたか。**	B	第 9 回の上田西高校学びプロジェクトに関して参加者がこれまでに比べて集まっていない現状があった。広報の仕方や生徒が必要とする講座などを見直し、生徒の学習機会を作るようにしたい。
②	話し合いを通して、協力体制をつくる力を身に着けさせる。	各委員会の活動・生徒総会や各行事の企画・立案などを通して、課題解決のための討議・実践・総括のプロセスを身につけられたか。	B	文化祭などの行事の際に生徒会の意図がなかなか生徒に伝わらないことがあった。一般生徒の代表である評議会との連絡の不徹底が問題と考える。評議会の時間を放課後に取るなどし、充実を図る必要がある
①	西高文化の発展と広がりを模索する。	これまでの西高文化の伝統を大切にしつつも、時代に合わせた西高文化の創設を模索することができたか。	B	上記同様、現在評議会改革にとりかかっている。
②	集団指導体制を通して豊かな資質を育む。	各行事を通して、学年・クラスを越えた生徒・教員の交流を図り、豊かな人間性を身につけられたか。	B	また、1 年次より積極的に生徒会活動にかかわれるように１年生から役員に立候補できる仕組みを改革した。

③	他校や地域との交流を深める。	他校との交流や、震災支援などの地域的な活動を通して、他から学ぶ力や社会性を豊かにすることができたか。	B	文化学園長野高校との交流を進め、文化祭では石川県の鵬学園の開発商品を取り寄せるなど、これまでのつながりをさらに深めた。

◆環境衛生(環境分野)係

〔1〕今年度の重点目標

①管理箇所の点検や防災の推進を図る。

②年間を通して校舎内外の整美と美化に務める。

③全校生徒、職員による清掃活動を徹底する。

④学習環境や地球環境の保護意識を高める。

〔2〕評価表　※評価【〔達成度〕 A:十分　 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	実施事項と今後の課題
①	分担箇所の管理	破損個所の発見および修繕 管理力所の安全確保	A	学校見学会、部活動見 学会前の点検 西高祭の後の点検
①	防災意識の啓発とそなえ	生徒の防災に対する意識の啓発および防災訓練の実施	A	9 月 5 日防災訓練の実施 各教室へ年度初めに避難経路掲示
②③	校内清掃活動の推進	日常の清掃活動の徹底 清掃用具の保守および点検 整美委員会からの呼びかけ	A	5 月、8 月にモップ交換実施と使用限界清掃用具の交換（年度初め＋2 回） 7 月清掃強化週間（委員会で推進）
③④	ゴミ分別の徹底	環境負荷を念頭においた分別活動 職員の分別作業への参画（週番）	B	西高祭での分別の徹底（委員会で担当） 毎日のごみ回収とチェック（委員会、職員）